

神奈川県外国人観光客実態調査（令和元年度）概要

調査目的

外国人観光客の訪県実態を把握し、戦略的なプロモーション及び受入環境整備に係る施策立案のための基礎資料とする。

調査期間

令和元年10月～令和元年12月

調査場所

羽田空港、横浜・鎌倉・江の島・箱根の観光施設及び県内宿泊施設等

調査方法

ヒアリング又は留め置きによる調査

回答者数

1,643人

結果概要

居住地と訪問地について

- ・回答者の居住地別では、米国（回答者の14.8%）、中国（14.2%）、オーストラリア（8.5%）、英国（7.3%）、フランス（6.3%）が多く、例年上位の台湾（5.4%）、香港（4.0%）を上回ったが、これはラグビーワールドカップ開催の影響を受けたものと考えられる。
- ・県内訪問先としては、例年同様、横浜（54.8%）、箱根（41.5%）、鎌倉（40.2%）、江の島（22.8%）の順で訪問者数が多く、上位3地域に江の島が続く傾向が続いている。
- ・横浜と箱根は米国、中国から、鎌倉は中国、米国から、江の島は中国、台湾からの順で訪問者が多い。
- ・米国を筆頭にその多くが横浜、箱根、鎌倉の順で訪問者数が多く、中国とドイツは鎌倉、横浜、箱根、フランスとスペインは鎌倉、箱根、横浜の順に訪問者数が多い。一方で、台湾は横浜、鎌倉、江の島、香港は鎌倉、江の島、横浜の順に多く、江の島と比較して箱根への訪問が少なく、東アジアで湘南地区の人気が高い傾向が見られた。
- ・県外からのスポット訪問でなく県内周遊の場合、起点を鎌倉とすることが最も多く、その約7割が江の島を訪れている。横浜起点の場合は、鎌倉、江の島、箱根、横須賀、小田原など様々な地域を訪れている。

ニーズ等について

- ・県内を訪れる人の半数以上が「自然観光（52.0%）」を目的としており、次いで「食事（38.8%）」「美術館・博物館（33.5%）」「神社・仏閣（28.1%）」「街歩き（15.1%）」が続く。
- ・旅行中の受入環境で、満足した点は「交通アクセス（44.7%）」「店員・係員の言語力（17.3%）」「案内板・施設・店舗での言語標記（14.2%）」が上位にあがった。
- ・不満に感じた点としては、「店員・係員の言語力（6.8%）」「交通アクセス（4.0%）」「施設・店舗の利用可能時間（3.7%）」の順であるが、「特になし（75.3%）」と比較し、低い数値にとどまっている。

移動について

- ・目的地への移動手段は鉄道（78.7%）が中心で、路線バス（20.4%）となった。
- ・鉄道は、江の島（91.0%）での利用が他地域に比べ高く、路線バスでは箱根（41.5%）、小田原（45.9%）が高い。
- ・移動における不満点は「特になし（78.0%）」が最多で、次いで「混雑していた（5.2%）」、「価格が高い（5.1%）」となった。

※詳細については、調査報告書をご確認ください。

活用方法

<調査結果>

旅行形態が個人旅行の割合が増加傾向 (89.9%を占める)
「店員・係員の言語力」が不足 (6.8%が旅行中の「不満点」とした)
県内宿泊日数の伸び悩み (2泊以内が61.1%を占める)



<活用方法>

魅力創造会議における1000本ツアーの造成、 魅力的な観光資源の発掘に役立てる。
自動音声翻訳機の整備に係る費用を補助する。
ナイトタイムエコノミーに係るコンテンツの プロモーション強化し、県内宿泊を促進する。